

一 学校目標・教育方針

1. 学校目標

理想をめざし、たくましく実践する人になろう

2. 育みたい心

春富の心 命 この世にたった一つの自分の命を友とともに輝かせる

信頼 日々の挨拶、日々の心遣いで、自分と周りの人の幸せを育む

3. 経営の理念 「きく」

学校生活の中で、人と関わる際「はなす」「きく」がメインとなっている。授業においても、教師や友だちの説明をきく、自分の考えを述べる（はなす）の対話的な場面が多く散見される。

対話的活動が中心の学び合いの授業の中でわからないことを友達にきいたり、友達の意見をきいたりすることによって自分の考えを膨らませ、考えを見返すなどして「わかった」「できた」「何とかなりそうだ」など理解を深めている。

その活動の中心は「きく」ことから始まる。「きく」という字を入力するといろいろな文字が変換される。「聞く」「聴く」「効く」「利く」「訊く」どれも意味があるものだが、ここであえて「きく」にしたのは、人とのかかわりの中でそういったものをすべて含むとして「きく」ことを大切にしたいと考え理念に据えた。

4. 教育方針

教職員は絶えざる研修で資質を高め、保護者・地域社会との信頼関係を築き、生徒一人ひとりに生きる力を育むために次の方針を指標とする。

- (1) 生徒を愛し、学校目標にかかげられた事項の具現化に努める。
- (2) 一人ひとりの生徒の立場に立ち、感性豊かな生徒を育てる指導の具現化を図る。
- (3) 専門職としての自覚に立って研修、研鑽に努め、教師としての力量を高める。
- (4) 保護者、地域社会の願い・要望に応え、学習に喜びを感じずる生徒を育てると共に、PTA及び教育諸団体とも協力して、心身共に健全なる生徒の育成に努める。また、不登校等の教育課題に連携して取り組む。
- (5) 小中高ならび地域との連携を重視し、授業交流や部活動交流等を積極的に進めることを通して、生かされている自分を意識させ、未来に向けて社会に能動的に働きかけることができる生徒を育成する。
- (6) 校長を中心として職員の和を図り、全職員の結集した指導が生徒の上に発揮されるように努める。

二、重点目標の具体「三つの矢羽根」

《矢羽根1》 「授業を学校づくりの根幹に考える」

「わからない」という友だちへの問いかけを大切にする

- ①わからないと言うこと
- ②友だちの声に耳を傾けること
- ③自分のわからなさを追究すること

《矢羽根2》 「インクルーシブな教育環境づくり」

《矢羽根3》 「カリキュラムをデザインする」

グランドデザインについて

学校目標を具現するグランドデザインをできるだけシンプルでスリムにした。土台となる部分に学校経営ビジョンを据え、互いの違いやよさを認め合える環境づくりと保護者・地域と連携して地域性を生かした春富のカリキュラムづくりを基に、授業の充実を中央に配置し、学び合いの授業の更なる推進を根幹に据えた学校づくりを表した。

以上のことを3つの柱とし、学校経営ビジョンを

「すべての子どもがもてる力を発揮し、学び合いの授業を柱とした授業づくりを通して、思考力・判断力・表現力を高めていく」としたい。